

2026 年 7 月 22 日

2025 年スポットワーク市場規模の推計

～2025 年のスポットワーク市場規模は 1,503 億円と推計、3 年間で約 4 倍に拡大～

経済調査部 主席エコノミスト 星野 卓也

(TEL : 050-5474-7497)

(要旨)

- (株) タイミーの事業データをもとにスポットワーク市場の規模を推定。2025 年は 1,503 億円(前年比+26.7%)と、3 年で約 4 倍に拡大。特にスポットワークの広がる「運搬の職業」ではパート・アルバイト労働者の延べ労働時間に占める比率が 8.7%に達し、スポットワークが相応に存在感を高めていることがうかがえる。

(※) 本稿はタイミー・スポットワーク研究所における筆者執筆レポートを基に作成

(<https://spotwork.timee.co.jp/entry/report/marketsize-2025>)。

2025 年のスポットワーク市場規模は 1,503 億円と推計

今回、筆者が客員研究員を務める(株)タイミーからスポットワークサービス「タイミー」の事業データの提供を受け、それをもとに近年国内で広がるスポットワーク市場の規模を推計した。推計方法は本稿末で解説している。スポットワークとは、数時間や1日単位など短時間・単発で働く形態であり、スキマバイトとも呼ばれるものだ。スマートフォンのアプリなどを介して企業と労働者のマッチングが行われ、近年その手軽さ、柔軟さなどを背景に急速に広がっている労働形態である。

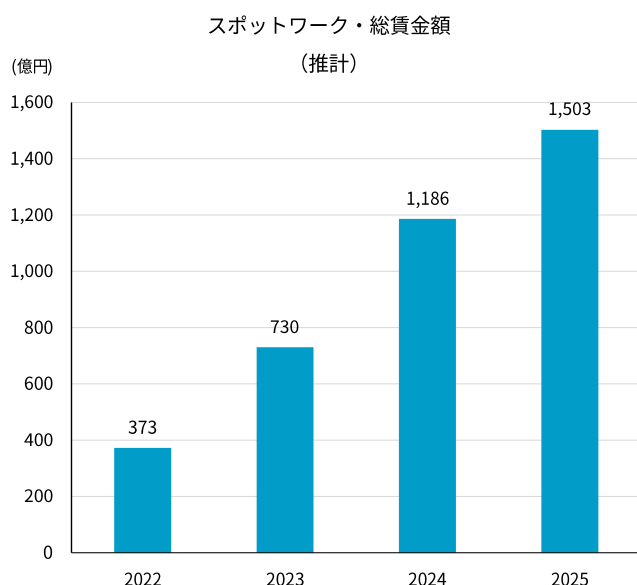
2025 年のスポットワーク市場規模(スポットワークで働く人に対して支払われた総賃金額)は 1,503 億円と推計される。また、スポットワークの延べ労働時間は 12,953 万時間に達したと推計される。総賃金額、延べ労働時間ともに 2022 年対比では約 4 倍に拡大した。市場規模について各年の成長率をみると、2023 年は+96.0%、2024 年は+62.5%、2025 年は+26.7%であった。マーケットの成熟が進むもとで成長率は低くなっているが、依然として高い伸びが続いているといえる。

また、2025 年のスポットワーク延べ労働時間が国内全体の延べ労働時間(正社員やパート・アルバイトを含む)に占める割合は 0.13%程度、パート・アルバイト労働者の延べ労働時間との対比では 0.9%程度となる。こちらも年々上昇傾向にあり、労働市場においてスポットワークが存在感を徐々に高めていることがうかがえる。

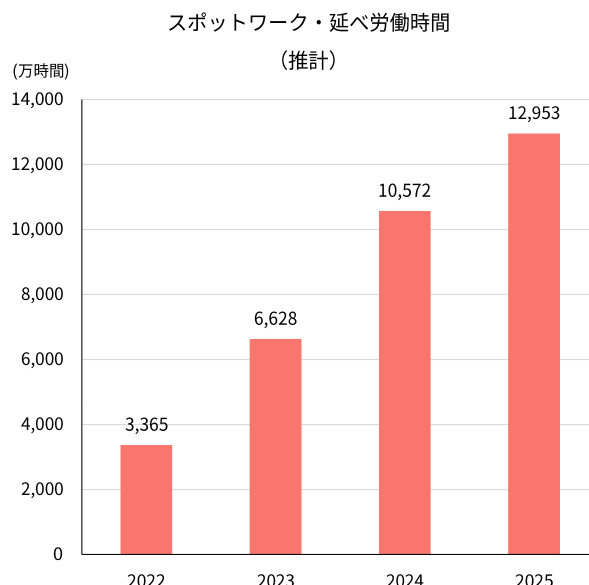
特に、スポットワークの中心職種である運搬(配達や倉庫作業など)、接客・給仕(飲食店やレジ

ャー施設での接客など)、商品販売(コンビニやスーパーでの販売など)の仕事に絞って、パート・アルバイト労働者の延べ労働時間との対比をみると、スポットワーク延べ労働時間はそれぞれ運搬が8.7%、接客・給仕が3.4%、商品販売が1.0%となった。スポットワークが広がっている運搬の職業では特に高い数字となっている。スポットワークが国内の労働市場においても相応に存在感を高めていることがうかがえる。

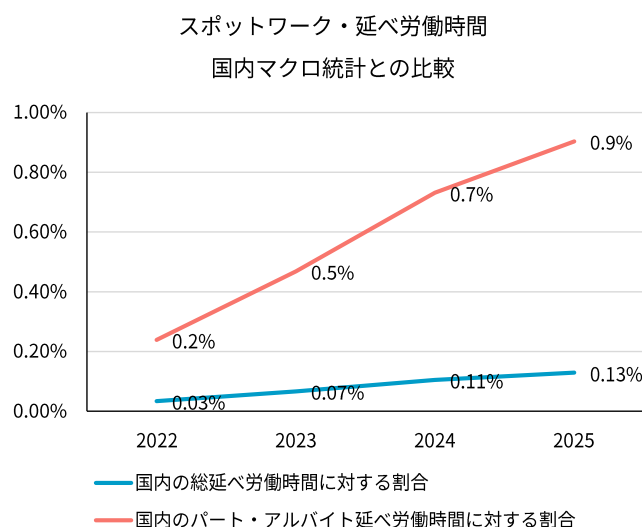
図表1. スポットワークの総賃金額の推計



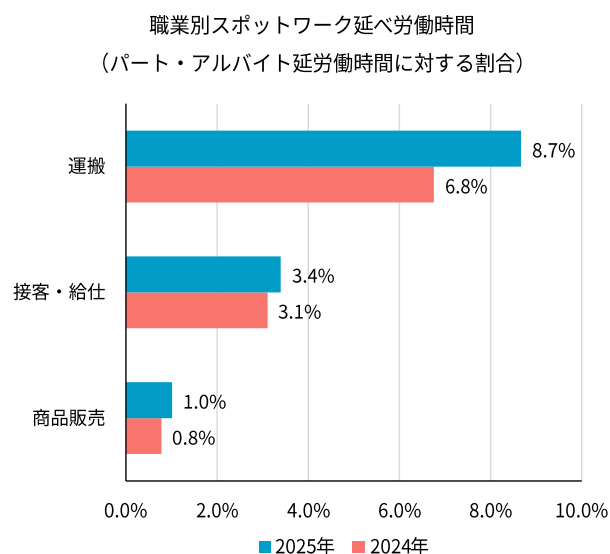
図表2. スポットワークの延べ労働時間の推計



図表3. 延べ労働時間のマクロ比較



図表4. 職種別延べ労働時間のマクロ比較



(出所) タイミー、スポットワーク協会、厚生労働省、総務省などから作成。

(注) 2024年7月に実施した推計から2024年の推計値を見直している(1,216億円→1,186億円)。推計に用いている職業紹介実績データの公表や新たに取得した各社データを反映したもの。

（推計方法の概要）

タイミーの業務データ（2025 年 2－4 月期～2025 年 11～2026 年 1 月期を 2025 年としている）から、1 年間の支給総賃金額や延べ労働時間を抽出。他の主要スポットワーク事業者については、厚生労働省「人材総合サービスサイト」における職業紹介実績：4 カ月未満有期雇用（人日）のデータをウェイトとみなしたうえでタイミーデータから割り戻しを行った（タイミー以外については案件当たりの平均賃金水準などをタイミーと同等と仮定）。人材総合サービスサイトでデータが得られなかった企業については、各社の公表データやタイミーデータ等をもとにウェイトを別途推定している。

国内のマクロ経済対比での規模については、総務省「労働力調査」、厚生労働省「毎月勤労統計」、「賃金構造基本統計調査」をもとに年間の総労働投入量を計算。算出した値を推定したスポットワーク市場規模と対比した。